

岩手県文化・スポーツ振興戦略の策定について
(平成28年12月県議会 議案等説明会資料)

スポーツ推進審議会資料
平成29年1月25日
スポーツ・文化行政一元化CFT

【趣旨】

平成29年4月からの文化・スポーツに関する事務の知事部局への一元化に向けて、平成33年までの概ね5年間における岩手県の文化・スポーツ振興に係る指針として「岩手県文化・スポーツ振興戦略」を策定しようとするものです。

第1章 基本的な考え方

1 策定の趣旨

- 岩手には、文化遺産や宮澤賢治などの文学・伝統文化、ラグビーやホッケーなどスポーツの風土、新渡戸稲造などの先人の思想など、多様な資源があり、そこに住む人の心と調和した真の豊かさがあること。
- ラグビーワールドカップ2019™の釜石開催や「平泉の文化遺産」の拡張登録、「縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けた取組などの機会を生かし、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会を通じて得た、競技力の向上や“おもてなし”などの遺産(レガシー)を、次世代につなげていくことが求められていること。
- 文化・スポーツには、岩手の未来を切り拓く力があること。文化・スポーツを通じて、地域の誇りを高め、愛着を深めるなど、地域社会の一体感や活力の向上につながる。
- 文化・スポーツが有する多面的価値により、観光産業の振興やスポーツ産業など幅広い分野への波及効果が期待され、東京一極集中の是正をはじめとする東京と地方の関係を再編する起爆剤の一つとなり得る可能性があること。県民が日常的に文化・スポーツに親しむこと等を通じて、県民一人ひとりの個性が輝き、創造性が発揮される社会の実現が期待されること。

この戦略は、文化・スポーツを巡る様々な潮流を的確に捉え、平成33年度までの概ね5年間における岩手県の文化・スポーツ振興のための方策を具体的に示すもの。

2 戦略の位置付け

- 「いわて県民計画」第3期アクションプランの政策推進目標の推進やその先の、あるべき未来の姿の実現に向け、平成33年度までの概ね5年間に、県として戦略的に取り組む施策の指針であり、「岩手県ふるさと振興総合戦略」や「岩手県文化芸術振興指針」などの関係計画等を踏まえたもの。

3 目指す姿

個性と創造性あふれる「ココロパワー・カラダパワー いわて」

文化・スポーツは、日常生活に潤いや活力を与えるだけでなく、私たちが抱く夢や希望を実現し、自己表現のツールとして欠くことができないもの。また、一人ひとりの個性と文化・スポーツが有する多面性や広がりや融合することにより、人と人、人とふるさとのつながりという社会的な力となるとともに、観光・スポーツ産業・健康医療産業・文化芸術産業などの経済的な力を生み出す可能性を有している。

こうした文化・スポーツのパワーにより、創造性にあふれ、多様な個性を受容し尊重する岩手をつくっていく。

第2章 戦略

(凡例) ■は「新規」。□は「祖替新規」又は「継続」

戦略1 国体・大会のレガシーの継承と従来の枠を超えた文化・スポーツへの取組

- 【重点施策1】ラグビーワールドカップ2019™釜石開催の成功と大会後のレガシーを見据えた取組の推進
 - 成功に向けた開催準備 □キャンプ地等の県内誘致 □選手の発掘・育成、普及活動
- 【重点施策2】東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた地方が主役となる取組の推進
 - キャンプ地誘致、ホストタウン登録支援 □PR活動の展開 ■岩手の文化の魅力を国内外に発信
- 【重点施策3】ポップカルチャーなど従来の文化の枠を超えた取組の推進
 - いわて若者文化祭の開催 □マンガ、ゲーム等の活用 □超人スポーツなど新しいスポーツの発信
- 【重点施策4】アール・ブリュットに対する県民の理解増進及び活動支援
 - 作品の県立美術館等での展示 ■アーティストの掘り起し ■アール・ブリュットによるまちづくり

戦略2 県民の心を豊かにする文化芸術の振興

- 【重点施策1】文化芸術に親しむ機会の提供や文化芸術を生かした地域づくりの推進
 - 岩手芸術祭巡回展の拡充開催 ■全国規模の文化芸術イベントの開催 ■文化財ガイドの養成
- 【重点施策2】未来の文化芸術を担う人材の育成
 - 来県する一流芸術家との交流機会の提供 □文化芸術団体と児童等との交流を通じた後継者育成
- 【重点施策3】文化芸術活動を支える環境の整備
 - 文化芸術情報の発信強化 □文化芸術コーディネーターの周知 ■障がい者の創作活動機会の確保
- 【重点施策4】世界文化遺産の価値や理念の発信、普及
 - 世界遺産の価値等の発信・普及イベントの開催 ■VR技術の活用検討 □世界遺産授業の実施

戦略3 県民が元気になるスポーツの振興

- 【重点施策1】一人ひとりが楽しむことができるスポーツ社会の推進
 - 運動・スポーツへの参加機運の醸成 ■スポーツ医・科学の視点を取り入れた運動習慣等の定着
- 【重点施策2】競技力向上とトップアスリートの育成
 - トップアスリートの育成・活動支援 □競技力向上を担う指導者養成 □アスリートの県内定着支援
- 【重点施策3】スポーツ活動を支える環境の整備
 - 指導者やボランティアが継続して活動できる取組の推進 □スポーツ医・科学機能の拠点設置検討
- 【重点施策4】プロスポーツチーム等との連携やスポーツツーリズムの振興による地域活性化の推進
 - プロスポーツチーム等によるスポーツ教室開催 ■いわてスポーツコミッション(仮称)の設置検討

第3章 ライフステージごとの姿

- 第2章の3つの戦略をもとに、県民一人ひとりのライフステージに着目し、それぞれのステージごとに見た期待する県民像を、乳幼児期、青少年期、成人期、高齢期の4つに分けて整理。

第4章 戦略の推進

1 推進体制

- 文化・スポーツに関する事務の知事部局への一元化を行うとともに、その事務を担う専任組織を設置。
- 市町村・関係団体をはじめとした多様な主体と連携を図りながら、庁内に各部局長等を構成員とする「岩手県文化・スポーツ事業推進本部(仮称)」を設置するなど、部局横断的な取組を戦略的に推進。

2 多様な主体との協働

- 文化・スポーツに関する専門的な知見を有する各種団体からの意見等を県の施策に反映。
- 各主体間の交流・協働・連携体制の充実を図り、長期的な視点で人材育成を推進。